Panasonic®

取扱説明書

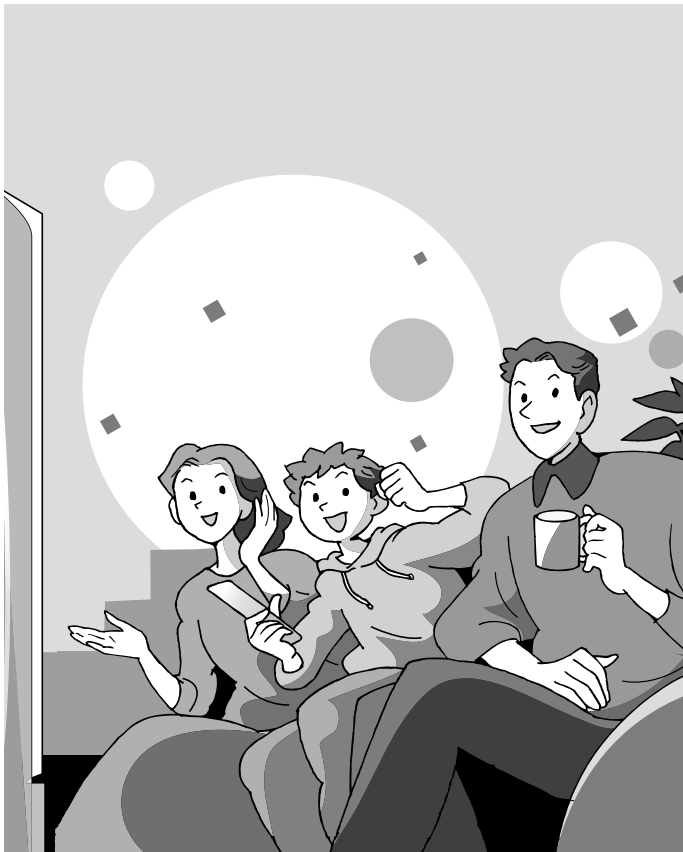
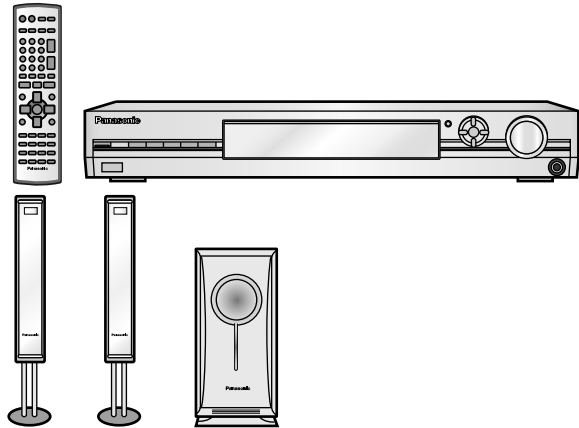
ホームシアターオーディオシステム

品番　**SC-HT03**

もくじ

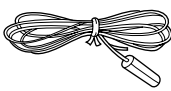
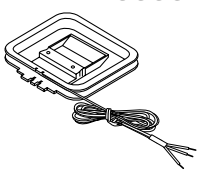
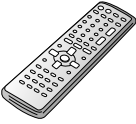
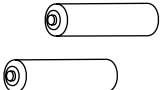
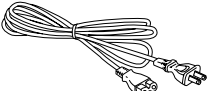
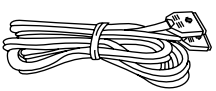
確認 と 準備

楽しむ

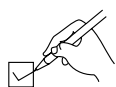
ご参考

このたびは、ホームシアターオーディオシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  特に「安全上のご注意」（2 ～ 3 ページ）はご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
  お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

上手に使って上手に節電

コンパクトかつ本格的なホームシアターシステム

- 本機は、ドルビーバーチャルスピーカー回路を搭載しています。フロントスピーカーとサブウーハーだけで、5.1 ch サラウンドに迫る音響効果を発揮しますので、限られた空間でも本格的なホームシアターを楽しむことができます。
- 本機はアナログアンプです。無駄な熱損失を少なくすることで地球環境に配慮しています。

付属品の確認

組み立て、接続の前に、まず付属品を確認してください。

□ FM 簡易型アンテナ（1 本）【RSA0007-L】

□ AM ループアンテナ（1 本）【N1DAAAA00002】

□ リモコン（1 コ）【EUR7722050】

□ リモコン用乾電池（単 3 形：2 コ）

□ 電源コード（1 本）【K2CA2CA00010】

□ システムケーブル（1 本）【K1HA25HA0001】

□ スタンド用パイプ（2 コ）【RYQ0463-S】

□ スタンド用ベース（2 コ）【RYQ0470-S】

□ スタンド用ネジ（大 4 コ、小 4 コ）
大【XSN5+10FN】
小【XSS6+14FZ】

お願い

- 付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
- かっこ【　】内は買い替え時の品番です。
- 付属の電源コードは、本機専用です。他の機器に使用しないでください。

安全上のご注意

必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）**

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

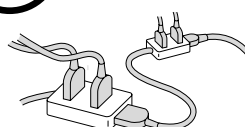
⚠ 警告

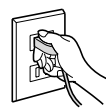
電源コードについて

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］

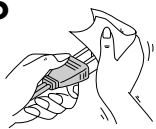
- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- 抜くときは、プラグを持ち、まっすぐ抜いてください。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

警告

電源コードについて

電源プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。
  電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

- 感電の原因になります。

ご使用について

機器内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたり濡らしたりしない

- ショートや発熱により火災や感電の原因になります。
- 機器の上に水などの液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造しない

分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起こったら

異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- **機器内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき**
- **煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき**
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

雷について

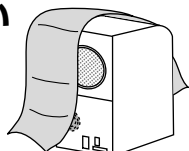
雷が鳴ったら、アンテナ線や機器、電源プラグに触れない

接触禁止

- 感電の恐れがあります。

注意

設置・接続について

放熱を妨げない

- 内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

不安定な場所に設置しない

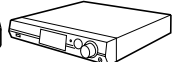
- **上に大きなもの、重いものを載せない**
- **取扱説明書に記載されている以外の方法で壁などに取り付けない。**
- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない

- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

屋外アンテナの設置・工事は自分でしない

- 強風でアンテナが倒れた場合に、感電やけがの原因になることがあります。
- 設置・工事は販売店にご相談ください。

異常に温度が高くなるところに置かない

- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

スピーカーは付属のものを接続する

- 付属以外のスピーカーを接続すると、スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

電池について

電池は誤った使い方をしない

- **⊕と⊖は逆に入れない**
- **新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない**
- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水などの液体、火の中へ入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**
- **乾電池の代用として充電式電池を使わない**
- **被覆のはがれた電池は使用しない**
- 長期間使用しないときは、取り出しておいてください。
- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

ご使用について

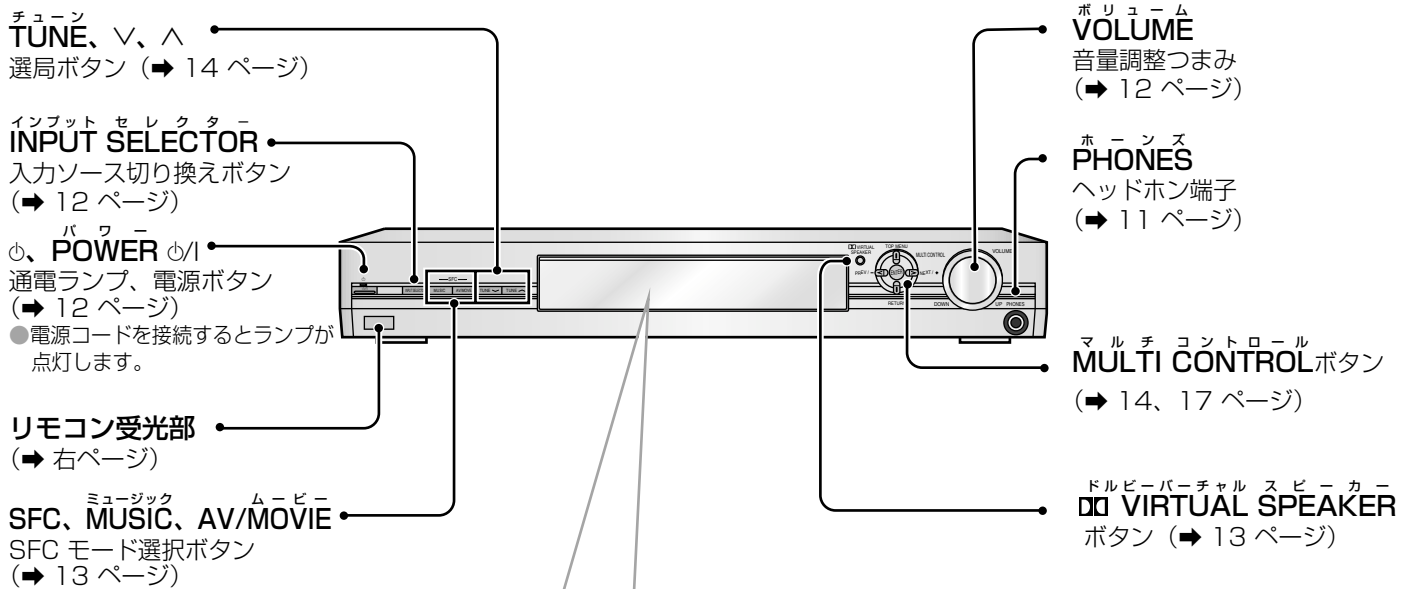
コードを接続した状態で移動しない

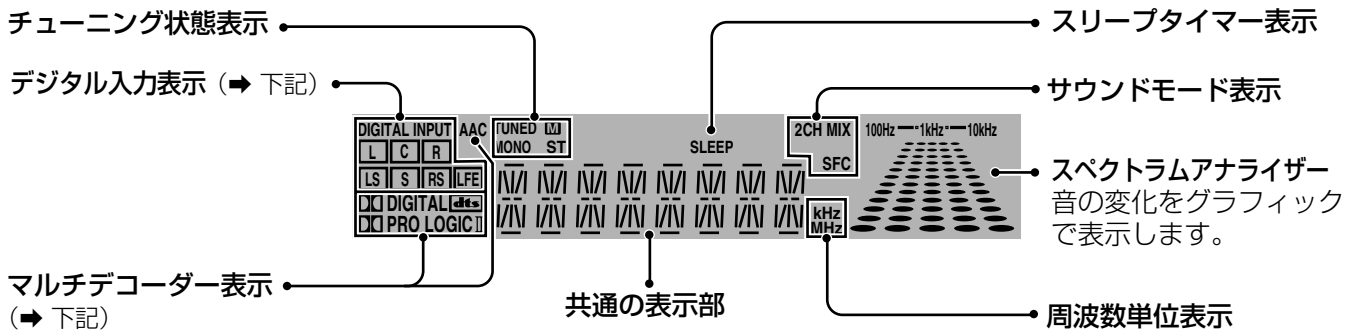
- 接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

各部のなまえ

本体

表示部

●DIMMER（➡ 16 ページ、「表示部を暗くする」）を使って明るさを変えることができます。

デジタル入力表示について

デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。入力がアナログのときは表示されません。

L ：フロントチャンネル（左）
C ：センターチャンネル
R ：フロントチャンネル（右）
S ：サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示
LS ：サラウンドチャンネル（左）
RS ：サラウンドチャンネル（右）
LFE：重低音効果チャンネル

マルチデコーダー表示について

入力ソース（音源）の信号やデコード形式により次のランプが点灯します。

AAC：AAC ソース（BS デジタル放送など）を再生しているとき
ꟷꟷ DIGITAL：ドルビーデジタルソースを再生しているとき
dts：DTS ソースを再生しているとき
ꟷꟷ PRO LOGIC Ⅱ：ドルビープロロジックⅡデコーダーが働いているとき（2 ch のアナログソースをドルビーバーチャルスピーカーモードで再生しているとき）

Dolby Virtual Speaker について

フロントスピーカーとサブウーハーだけで、多チャンネルサラウンドの効果を得られるシステムです。単なる仮想サラウンドと異なり、5.1 ch における理想のスピーカー配置と人の聴覚との関係を表現しますので、コンパクトながら本格的なホームシアターを楽しめます。

Dolby Pro Logic Ⅱ について

ドルビーサラウンドだけでなく、2 チャンネルのあらゆるソースをよりリアルな音場で再生するために開発されたデコードシステムです。サラウンドチャンネルをステレオ音声、フルレンジ（音声帯域が 20 Hz～20 kHz）で再生します。

Dolby Digital について

ドルビー研究所が開発したデジタルサラウンドシステムです。

DTS について

DTS 社が開発したデジタルサラウンドシステムです。

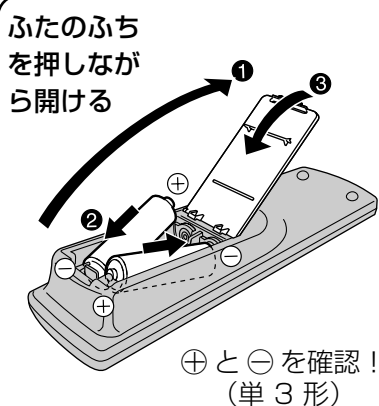
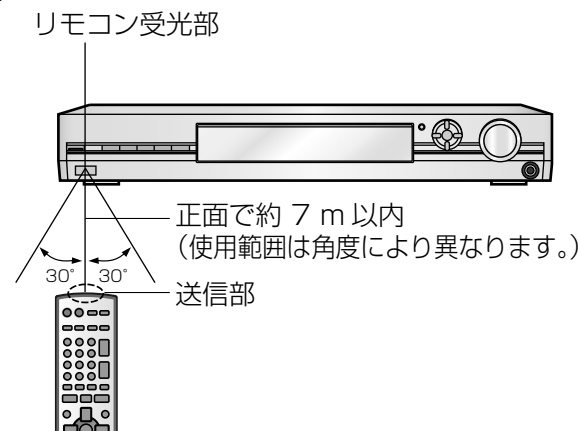
AAC について

BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。
多チャンネルのサラウンド音声を再生できます。

リモコン

- AV システム（接続機器）電源ボタン（➡ 18 ページ）
- アンプ（本体）電源ボタン
- ラジオ選択/バンド切換ボタン（➡ 14 ページ）
- 数字ボタン（➡ 14、15 ページ）
- ダイレクトチューニング（直接選局）ボタン（➡ 14 ページ）
- ディマー（表示部明るさ調整）ボタン（➡ 16 ページ）
- 消音ボタン（➡ 16 ページ）
- 入力モード切換ボタン（➡ 16 ページ）
- 音声切換（AAC 音声モード切換）ボタン（➡ 16 ページ）
- サブウーハーレベル調整ボタン（➡ 16 ページ）
- サウンドモード選択ボタン（➡ 13 ページ）
- 入力ソース（音源）、リモコンモード切換ボタン（➡ 12、18、19 ページ）
- チャンネル選局ボタン（➡ 15、18 ページ）
- 音量調整ボタン
- AV システム（接続機器）操作ボタン（➡ 18、19 ページ）
- 各種調整設定ボタン（➡ 13、16 ページ）
- スリープタイマーボタン（➡ 16 ページ）

リモコンの準備

乾電池の入れかた

リモコンの使いかた

■**使用上のお願い**

- ●受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- ●受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- ●受光部と送信部のほこりに注意。

■**本体をラックに入れて使用するとき**

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

準備① ホームシアターの準備

ホームシアターを楽しむためのステップ

さらに

準備 ② で、付属のアンテナやお手持ちのゲーム機などを接続して、より一層充実したホームシアターや音楽空間をお楽しみいただけます。

準備 ①、② 共通のお願い

- 接続するときには、各機器の電源を切ってください。
- 接続する機器の説明書もご覧ください。
- 本機の上には物を載せないでください。

■本機と他機器の接続には下記のコード・ケーブル類を使用します。各接続ページをお読みのうえ、必要に応じて準備してください。

ステレオピンコード（別売り）
[品番：RP-CAP3G10（1 m）など]
(L/左) 白
(R/右) 赤

光デジタルケーブル（別売り）
[品番：RP-CA2010A（1 m）など]
角型　　角型

同軸デジタルケーブル（市販）

光デジタルケーブルの接続方法

- ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

別売り品の品番は、2004 年 2 月現在のものです。品番は変更されることがあります。

ステップ1 フロントスピーカーの組み立て

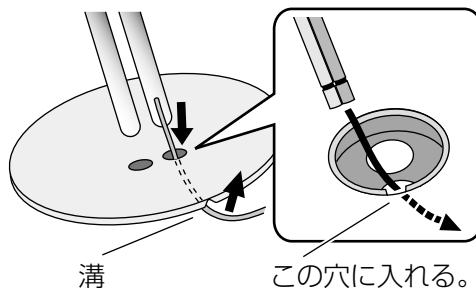
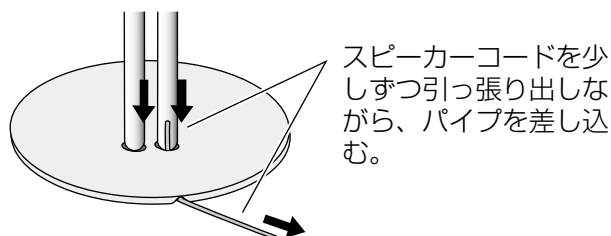
- スピーカーを傷つけないよう、柔らかい布などの上で行ってください。
- プラスのドライバーを用意してください。
- スピーカーおよびスタンドに左右の区別はありません。

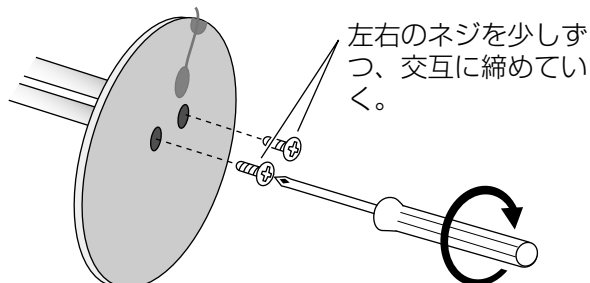
お願い

付属のスピーカースタンドは、本システム専用です。他のスピーカーには使用しないでください。

1 パイプをベースに取り付ける

1 スピーカーコードをベースの穴に通す

2 パイプを差し込む

スピーカーコードを少しずつ引っ張り出しながら、パイプを差し込む。

3 付属のネジ（大）でしっかりと留める

左右のネジを少しずつ、交互に締めていく。

お知らせ

完全に締めた状態でも、ネジの頭は少し外に出ます。

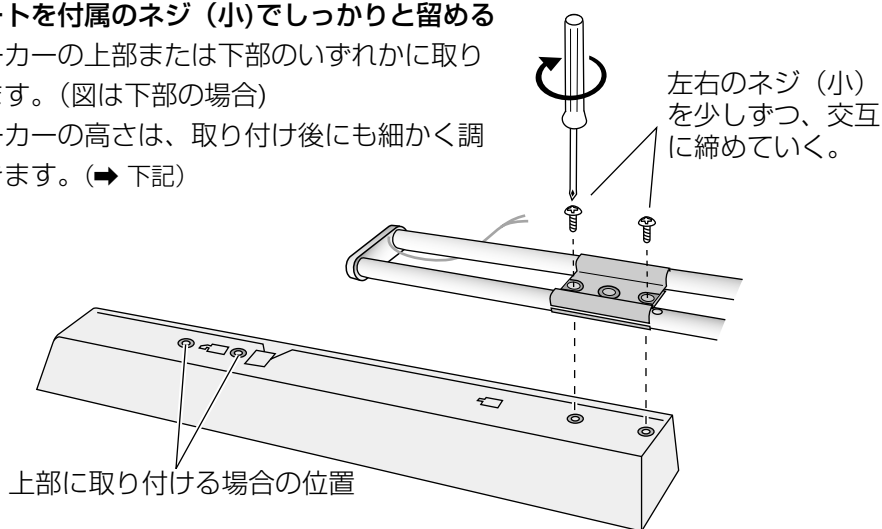
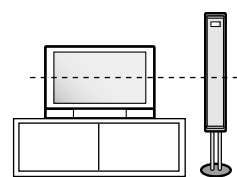
<u>防磁設計について</u>

- 本システムのスピーカーは、テレビとの近接使用が可能なスピーカーシステム（防磁設計 JEITA*）ですが、設置の仕方によっては、色ムラが生じる場合があります。その場合は、一度テレビの電源を切り、15～30 分後に再び電源を入れてください。テレビの自動消磁機能により、画面への影響が改善されます。その後も色ムラが残るような場合には、スピーカーを更に離してご使用ください。
- 近くに磁石等磁気を発生するものが置かれている場合には、本スピーカーとの相互作用により、テレビに色ムラを発生する場合がありますので、設置にご注意ください。

* 「防磁設計 （JEITA）」とは、（社）電子情報技術産業協会の技術基準に適合したスピーカーシステムです。

●本システムでは同梱のフロントスピーカーとサブウーハーのみ使用します。サラウンドスピーカーやセンタースピーカーなどを接続することはできません。
●スピーカーが転倒しないよう、必ず水平な場所にぐらつきのないように設置してください。それ以外の場所への設置は、転倒防止などの十分な安全対策を行ってください。

2 スタンドをスピーカーに取り付ける

1 **プレートを付属のネジ（小）でしっかりと留める**
スピーカーの上部または下部のいずれかに取り付けます。（図は下部の場合）
スピーカーの高さは、取り付け後にも細かく調整できます。（➡ 下記）

お知らせ
テレビの中心と、スタンドを除くスピーカーの中心の高さを同じにすると、より良い音声効果を得ることができます。

3 スピーカーの高さを調整する

1 **プレート中央のネジを、パイプが動くようになるまで緩める。**
緩めすぎると、スピーカーが落下する危険がありますのでご注意ください。

2 **パイプを好みの高さにする**
位置が決まったら、プレート中央のネジをしっかりと締めてください。

4 スピーカーコードを接続する

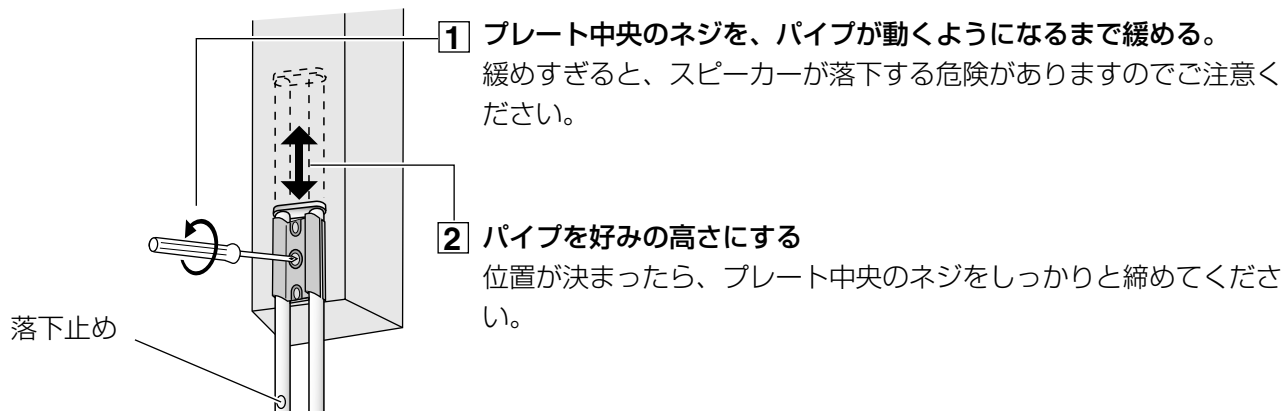
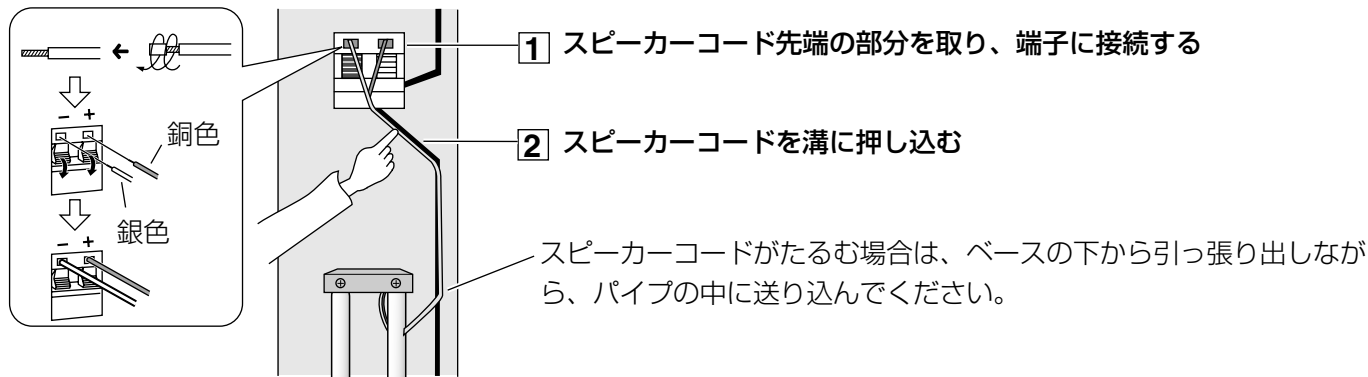
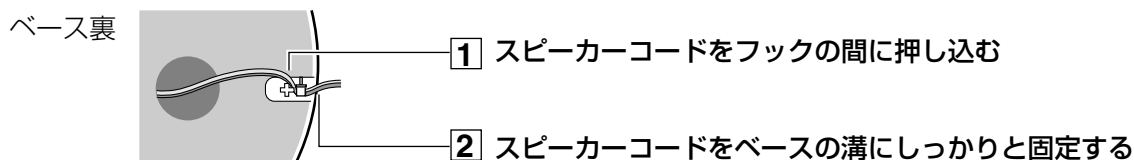
1 **スピーカーコード先端の部分を取り、端子に接続する**

2 **スピーカーコードを溝に押し込む**

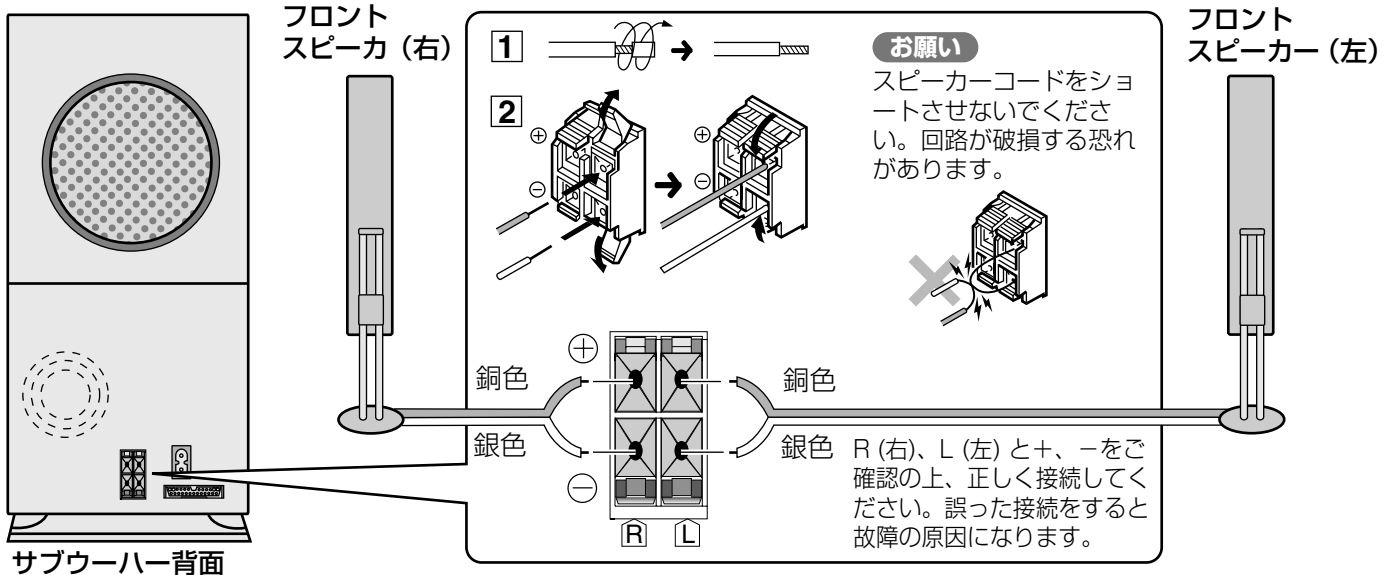
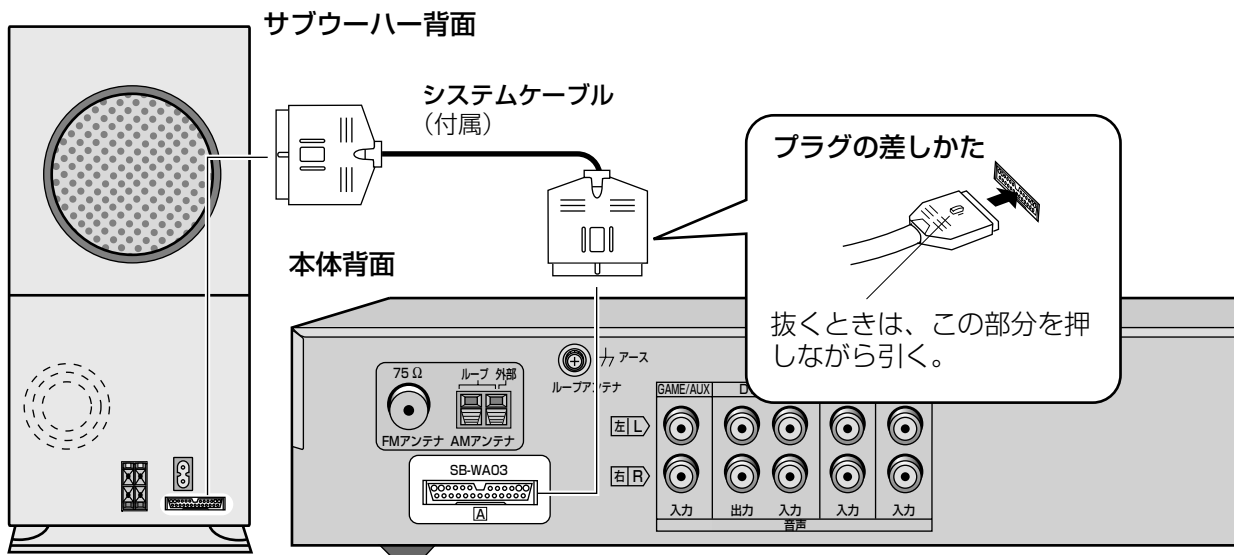
スピーカーコードがたるむ場合は、ベースの下から引っ張り出しながら、パイプの中に送り込んでください。

5 スピーカーコードをベースに固定する

1 **スピーカーコードをフックの間に押し込む**

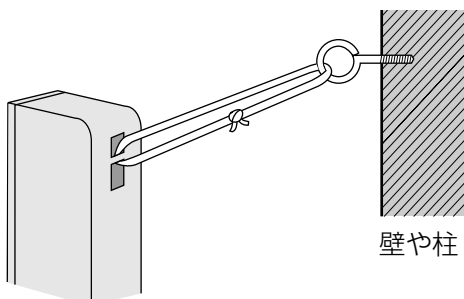
2 **スピーカーコードをベースの溝にしっかりと固定する**

ステップ2 スピーカーの接続

付属のスピーカー以外はご使用になれません
●他のスピーカーを使用すると、正しい特性の音が得られず、また故障の原因にもなります。

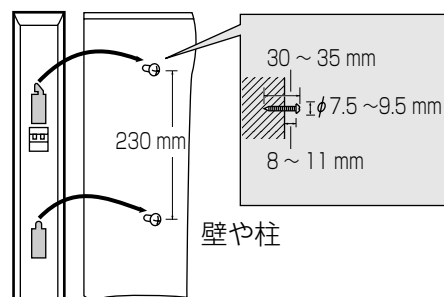
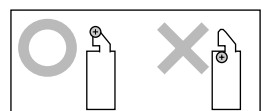
1 フロントスピーカーをサブウーハーに接続する

2 サブウーハーを本体に接続する

ご参考

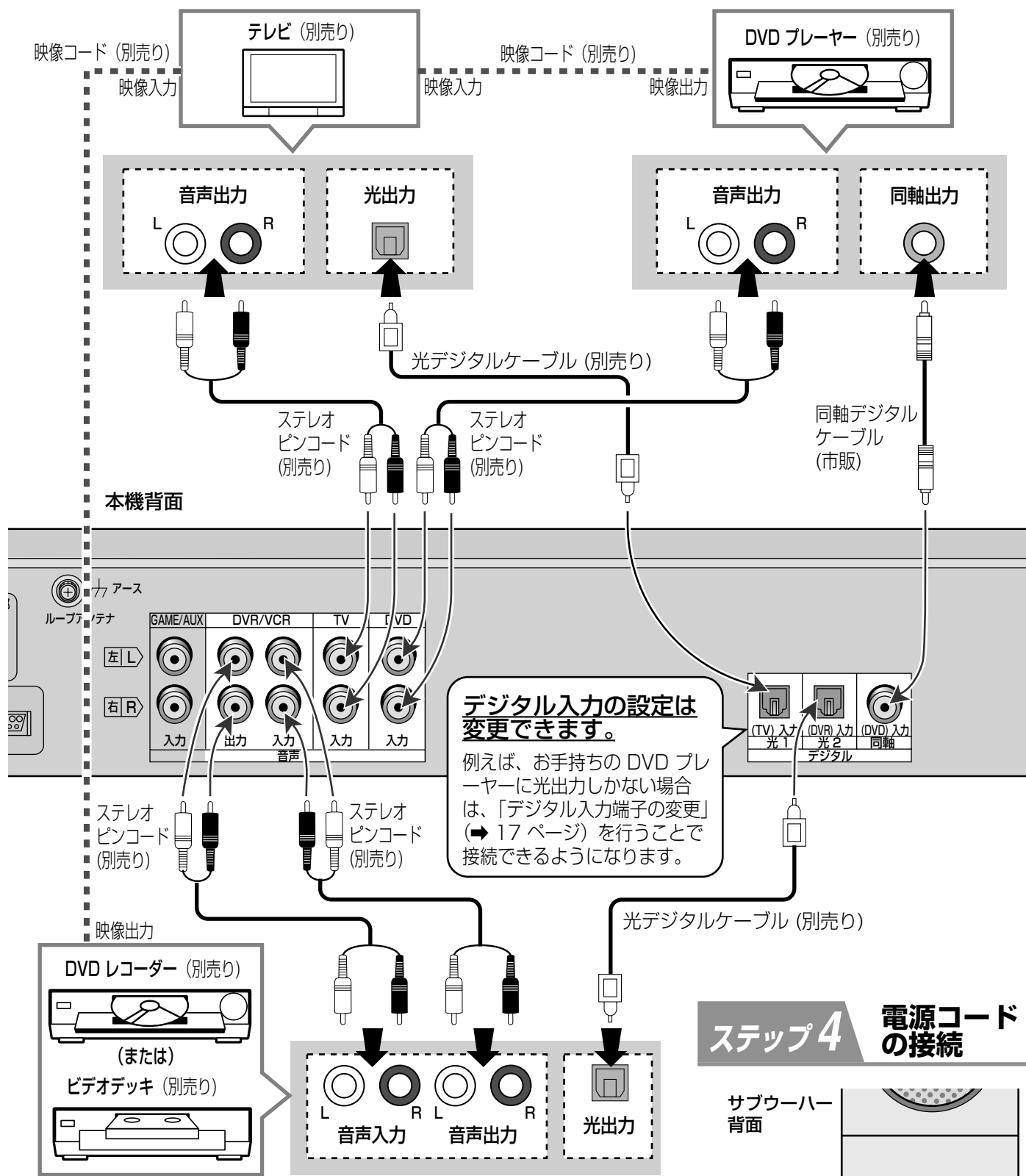
フロントスピーカーの転倒を防ぐには

丸環ネジと丈夫なロープ（ともに市販）を使って、壁や柱に固定します。

●壁や柱の材質に適したネジを使用してください。
●壁や柱によっては、ネジを使用できない場合があります。詳しくは施工者の方にご相談ください。

フロントスピーカーを壁に取り付けるには

2つのネジ（市販）を使って、壁や柱に固定します。

●壁や柱は、10 kg 以上の重量を支えられる強度が必要です。詳しくは施工者の方などにご相談ください。
●スピーカーの落下を防ぐために、左記のロープによる固定も併用されることをお勧めします。

●ネジは穴の最上部にしっかりはめ込んでください。

●スピーカーコードは、市販のコードと取り替えることができます。

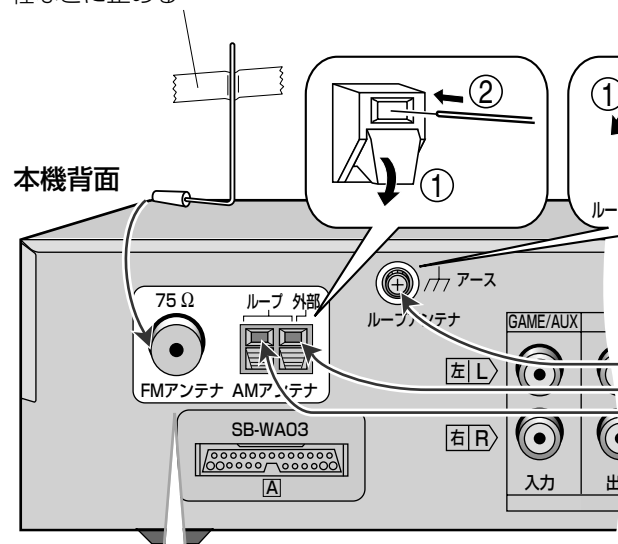
ステップ3 DVD レコーダー、テレビ、DVD プレーヤーやビデオデッキの接続

ステップ4 電源コードの接続

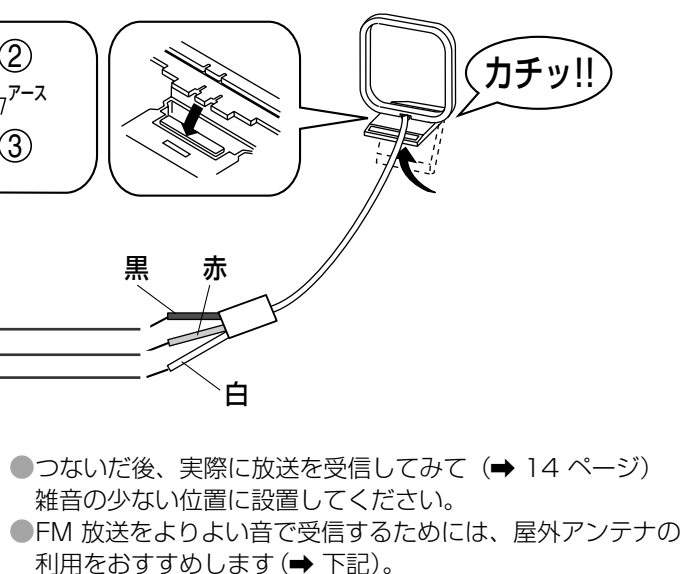
●他の接続が終わってから最後にコンセントへ接続してください。
●電源プラグをコンセントに接続した状態で約 1W の電力を消費しています。長期間使用しないときは抜いておいてください。ただし、電源プラグを抜いた状態で約 2 週間そのままにしておくと、本機の各種設定は工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度設定を行ってください。

準備② その他の接続

アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ（付属）

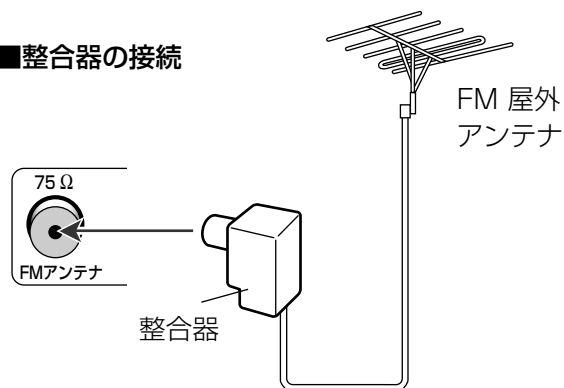
テープで壁や柱などに止める

AM ループアンテナ（付属）
白のコードを左、赤のコードを右の AM アンテナ端子に接続し、黒のコードをアースに巻き付けてください。

●つないだ後、実際に放送を受信してみて（➡ 14 ページ）雑音の少ない位置に設置してください。
●FM 放送をよりよい音で受信するためには、屋外アンテナの利用をおすすめします（➡ 下記）。

FM 屋外アンテナの利用

●山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。
●アンテナ線（同軸ケーブル）を整合器（市販）に取り付けて、後面に接続します。付属の FM アンテナは外してください。

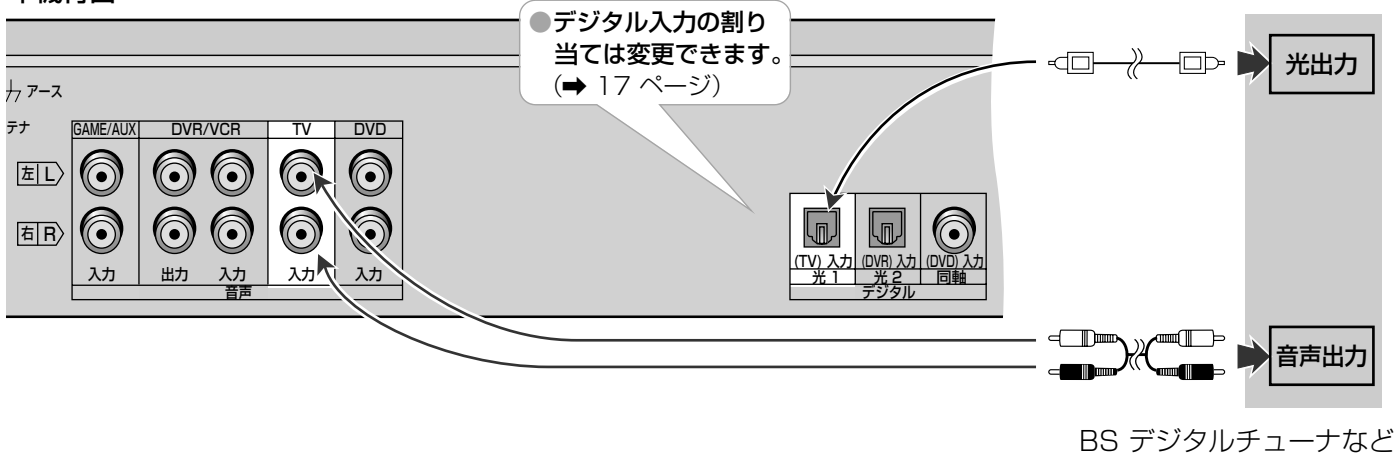
お知らせ

分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

■整合器の接続

BS デジタルチューナーなどの接続

テレビ用の入力端子を使って、BS デジタルチューナー（別売り）や CS チューナー（別売り）などを接続できます。

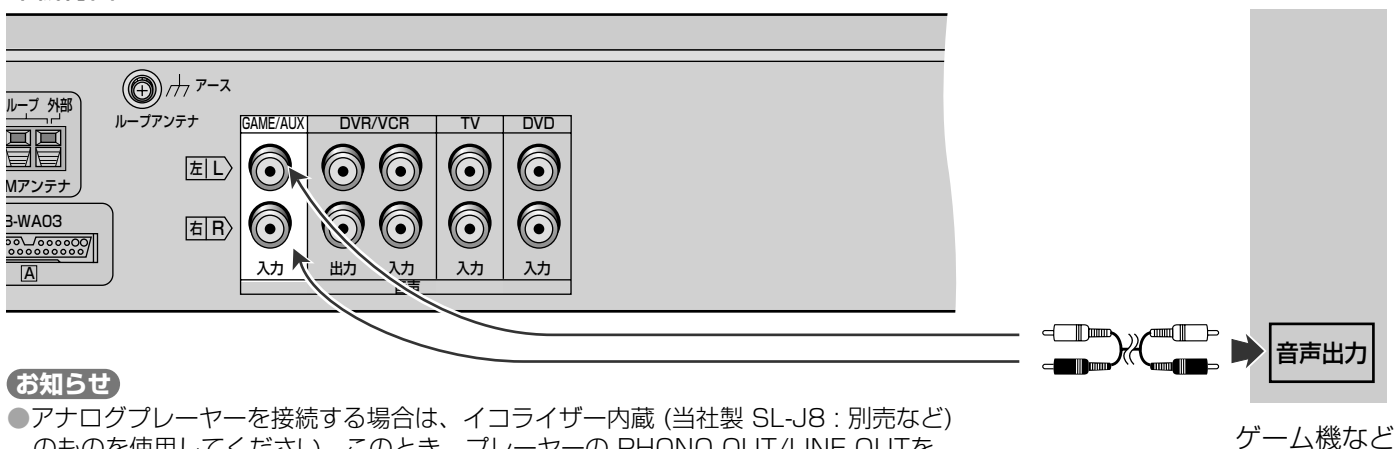
本機背面

BS デジタルチューナなど

ゲーム機などの接続

ゲーム機や CD プレーヤーなどを接続できます。

本機背面

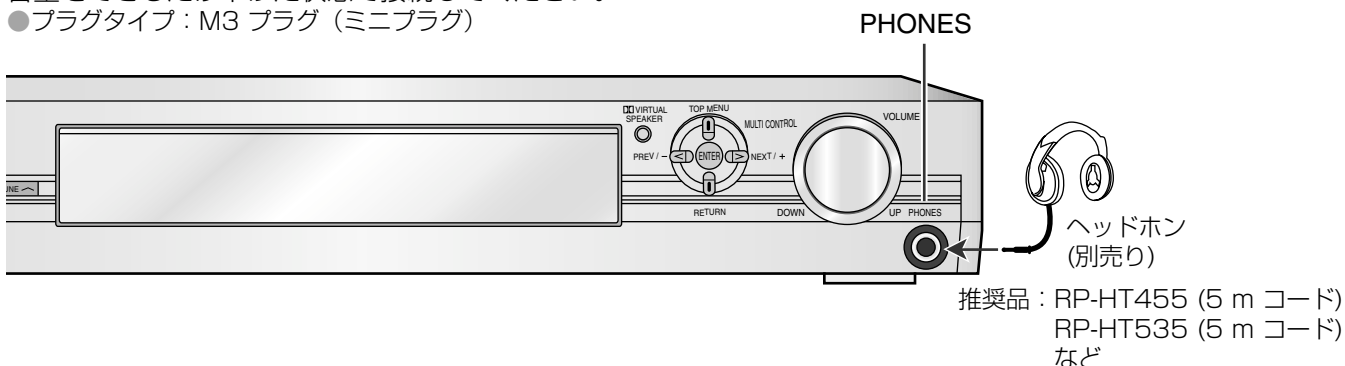
ゲーム機など

●アナログプレーヤーを接続する場合は、イコライザー内蔵 (当社製 SL-J8 : 別売など) のものを使用してください。このとき、プレーヤーの PHONO OUT/LINE OUTを "LINE OUT" に切り換えてください。

ヘッドホンの接続

音量をできるだけ下げた状態で接続してください。
●プラグタイプ : M3 プラグ（ミニプラグ）

PHONES

ヘッドホン（別売り）

推奨品 : RP-HT455 (5 m コード)
RP-HT535 (5 m コード)
など

お知らせ

●耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。

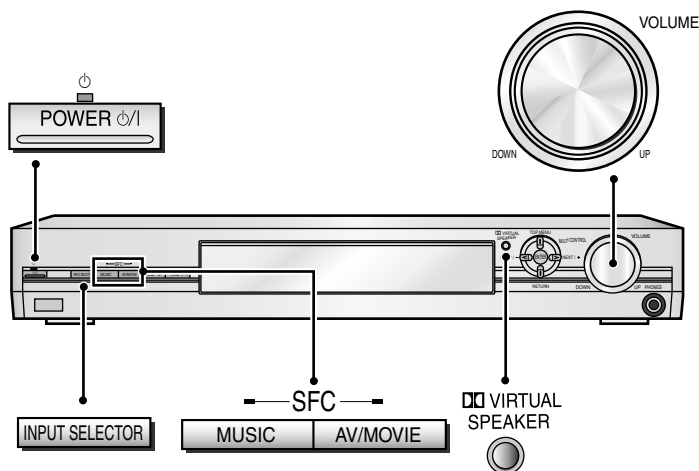
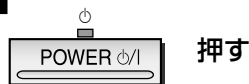
音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケット シンボルマーク

映画や音楽を楽しむ

1 電源を入れる

POWER ⏻/I　押す

2 セレクターを切り換え、入力ソース（音源）を選ぶ

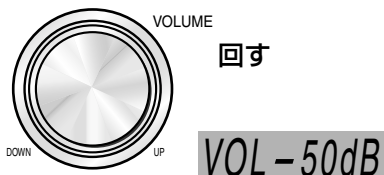
INPUT SELECTOR　押す

DVD

TUNER、*DVD*、*TV*、*DVR/VCR*、*GAME/AUX*

3 入力ソース（音源）を再生する

- ドルビーデジタルや DTS などの多チャンネルデジタル信号の場合は、自動的にドルビーバーチャルスピーカーモードになります。
- **好みのサラウンド効果を加えたい場合や、多チャンネルを通常のステレオで聞きたい場合などは**
  （➡ 右記「サウンドモード」）

4 音量を調整する

-- dB（最小）　***0 dB***（最大）

■再生を楽しんだ後は
音量を下げてから［POWER ⏻/I］を押して電源を切ってください。

サウンドモード

DOLBY VIRTUAL SPEAKER

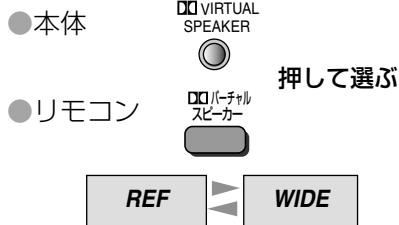
ドルビーデジタルやDTSのみならず、さまざまなステレオソースで5.1 ch サラウンド効果が楽しめます。

SFC (Sound Field Control)

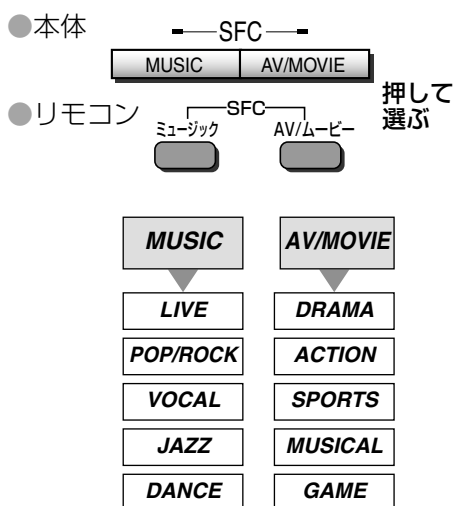
PCMおよびアナログのステレオソースに好みの臨場感や広がり感を与えたサラウンド効果が楽しめます。

2CH MIX

多チャンネルの信号を 2 チャンネルに集約し、左右のフロントスピーカーから出力します。

ドルビーバーチャルスピーカーおよびSFCの効果はソースによって異なります。実際の音をお聞きのうえ、適したモードを選んでください。

REF **（標準モード）**
左右フロントスピーカーとサブウーハーだけで、ドルビーサラウンドの多チャンネル効果が得られます。

WIDE **（ワイドモード）**
左右フロントスピーカーの間の距離が短い場合に、このモードを選んでください。

お知らせ
ラジオや CD などのステレオ音声にも効果があります。

■解除するには
[ステレオ/2CH MIX、切] を押す。

MUSIC **（ミュージック）**

LIVE **（ライブ）**
大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がり。

POP/ROCK **（ポップ/ロック）**
ポピュラーやロック音楽に適した効果。

VOCAL **（ボーカル）**
ボーカルの声を際立たせる効果。

JAZZ **（ジャズ）**
ジャズクラブのような狭い部屋の音の反響。

DANCE **（ダンス）**
ダンスホールのような広い空間で響いている音の広がり感。

AV/MOVIE **（AV/ムービー）**

DRAMA **（ドラマ）**
セリフがメインになるようなドラマに適した効果。

ACTION **（アクション）**
迫力のあるアクション映画に適した効果。

SPORTS **（スポーツ）**
スポーツ観戦しているような臨場感。

MUSICAL **（ミュージカル）**
ミュージカル劇場にいるような臨場感。

GAME **（ゲーム）**
迫力のあるサウンドでゲームなどを楽しむとき。

効果の強弱を調整する

効果の強弱を ***EFFECT 0***（最小）から ***EFFECT 3***（最大）の間で調整できます。工場出荷時は ***EFFECT 1*** です。

■解除するには
[ステレオ/2CH MIX、切] を押す。

ステレオ/2CH MIX 切 **押す**

■多チャンネル音声に戻すには
再度 [ステレオ/2CH MIX、切] を押す。

本機で再生可能なデジタル信号

- AAC
- ドルビーデジタル
- DTS
- CD などの PCM 信号（96 kHz、88.2 kHz の PCM 信号も含む。）

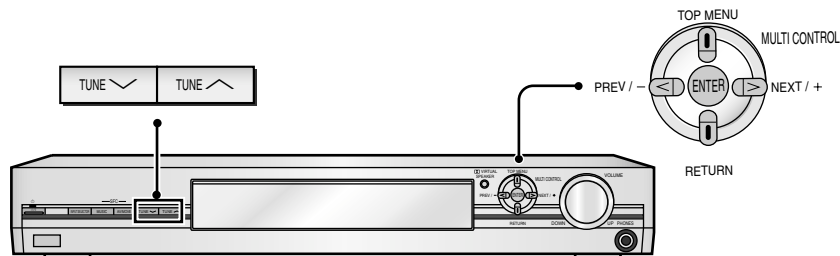
お知らせ
ドルビーデジタル RF 信号や、MPEG 音声信号は再生できません。

サウンドモードについて

PCM 信号のサンプリング周波数が 48 kHz を越えるときは、ドルビーバーチャルスピーカーと SFC の各モードは使用できません。

デジタル信号について

デジタル信号が入ったときや、デジタル入力モードに切り換えたときは、表示部にデジタル入力表示が点灯します。(➡ 4 ページ)

ラジオを聞く

マルチコントロールを使ったラジオの操作は、入力が“*TUNER*”のときのみ行えます。

周波数を合わせて放送局を選ぶ

順に選ぶ

1 “*FM*”または“*AM*”を選ぶ

●リモコン

ラジオ/バンド　押す

FM 76.0 MHz

同時に入力が“*TUNER*”に切り換わります。

2 好みの放送局を受信する

●本体

押す

TUNED：正確に受信すると点灯
ST：FM ステレオ放送を受信すると点灯

■自動的に選局するには（オートチューニング）
ボタンを長く押し、周波数表示が変わり始めたら指を離す
●最初に受信した放送局で自動停止します。
●オートチューニング中、周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずに停止することがあります。

直接選ぶ

数字ボタンを使って直接放送局を指定できます。

1 “*FM*”または“*AM*”を選ぶ

●リモコン

ラジオ/バンド　押す

FM 76.0 MHz

同時に入力が“*TUNER*”に切り換わります。

2 ダイレクトチューニングモードにする

押す

3 周波数を入力する

カーソルが点滅している間に
押す

例：88.1 MHz に合わせる
⑧ → ⑧ → ① を押す。

●周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。
●受信できない周波数を入力すると“***ERROR***”が表示されます。もう一度入力し直してください。

●ラジオ受信中に DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどからノイズを拾うことがあります。そのときは 各機器の電源を切るか、AM ループアンテナを本機と各機器からできるだけ離してください。

FM ステレオ放送で雑音が多いとき
(FM モード)

放送受信をモノラル音声にすることで、雑音を減らせます。

●モノラル音声に設定すると表示部に“MONO”が点灯します。

1 マルチコントロールモードに入る

●本体

押す

2 “*TUNER*”を選ぶ

① 選んで、
② 決定

TUNER

3 “*FM MODE*”を選ぶ

① 選んで、
② 決定

FM MODE

4 “*MONO*”を選ぶ

① 選んで、
② 決定

MONO

AUTO*、*MONO
●解除するには“***AUTO***”を選ぶ

●選局し直しても解除されます。

5 マルチコントロールモードを終える

2回押して
“***EXIT***”を選び、

押す

マルチコントロールメニュー
■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする

押す

ご参考 AMで雑音が多い場合は、本機のサラウンド機能を解除することで雑音を低減することができます。マルチコントロールの [ENTER]を、“*DEFEAT*”が表示されるまで押したままにします。元に戻すには“*DSP ON*”が表示されるまで再度押したままにしてください。

マルチコントロールを使ったラジオの操作は、入力が“*TUNER*”のときのみ行えます。
マルチコントロールのメニューと工場出荷時の状態については 20 ページを参照ください。

放送局を記憶させて聞く

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー(最大 30 局)し、簡単に受信できます。

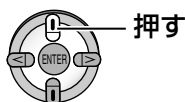
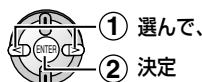
■自動で記憶させる(オートメモリー)
受信できる放送局を低い周波数から順に自動で記憶していきます。
FM 局： 1〜30 チャンネルに記憶
AM局： 21〜30 チャンネルに記憶
●必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると AM 局のメモリーが消えてしまいます。

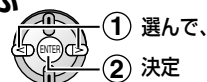
■手動で記憶させる(マニュアルメモリー)
好みの放送局を好みのチャンネルに記憶できます。

お知らせ
電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。

自動で記憶させる(オートメモリー)

1 ***FM* の場合は *76.0 MHz*、*AM* の場合は *522 kHz* に合わせる**
(➡ 左ページ)

2 **マルチコントロールモードに入る**
押す

3 **“*TUNER*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

4 **“*AUTO MEM*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

5 **オートメモリーを始める**
押す

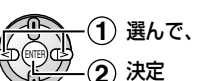
- “M”が点滅します。
- 放送局が記憶されるとメモリーしたチャンネルと“M”表示が約 1 秒間点灯します。
- オートメモリーが終了すると、最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。

手動で記憶させる(マニュアルメモリー)

1 **好みの放送局を受信する**
(➡ 左ページ)

2 **マルチコントロールモードに入る**
押す

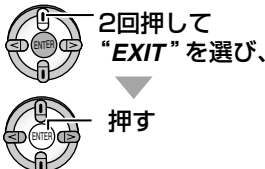
3 **“*TUNER*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

4 **“*MEMORY*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

5 **記憶させるチャンネルを選ぶ**
① 選んで、② 決定

CH 1〜*CH 30*
●チャンネルを決定すると“*STORED*”が表示されます。

お知らせ
●続けてメモリーする場合は手順 1 から行ってください。
●放送受信を“MONO”に設定した状態もメモリーできます。(➡ 左ページ)

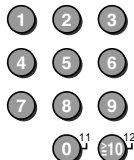
6 **設定を終える**
2回押して“*EXIT*”を選び、

押す

メモリーした放送局を聞く

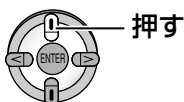
リモコンで操作する

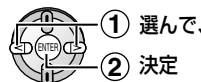
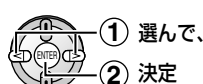
■チャンネルを切り換える
チャンネル
押す

(または)

■数字ボタンでチャンネルを入力する
押す

チャンネル 10 以上の選び方
例： 10 ≧10 → 1 → 0
25 ≧10 → 2 → 5

本体で操作する

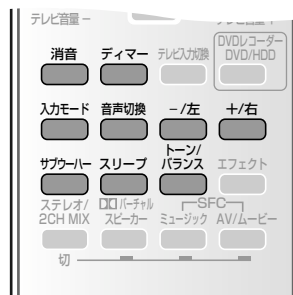
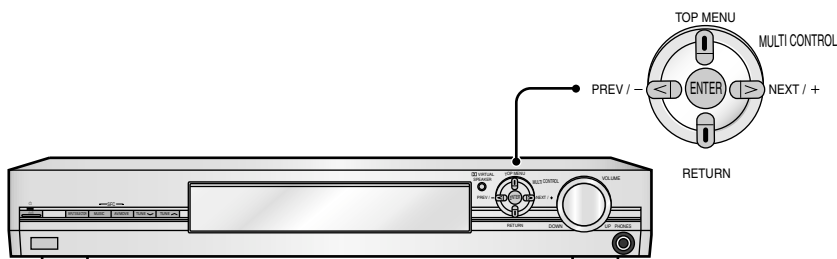
1 **マルチコントロールモードに入る**
押す

2 **“*TUNER*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

3 **“*TUNING*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

4 **“*PRESET*”を選ぶ**
① 選んで、② 決定

MANUAL、*PRESET*

5 **マルチコントロールモードを終える**
2回押して“*EXIT*”を選び、

押す

6 **チャンネルを選ぶ**
TUNE ﹀ TUNE ︿
押す
●ボタンを押したままにすると、チャンネルを早送りできます。
●メモリーした以外の放送局を受信するには、手順4で“MANUAL”に切り換えてください。

いろいろな設定/便利な機能

以下の操作はリモコンで行います。

サブウーハーレベルの調整

ソース（音源）を再生中に出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。

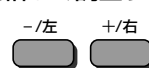
押して調整する

SW 10

---、*MIN*（最小）、*5*、*10*、*15*、*MAX*（最大）

●音がひずむ場合はレベルを下げてください。

“---” を選ぶとサブウーハーから音が出ません。

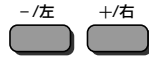
■細かく調整するには

---、MIN、1〜19、MAX と切り換わります。

音質の調整

BASS（低音）とTREBLE（高音）を調整できます。アナログ入力 または PCM 信号でのみ行えます。

① “*BASS*” または “*TREBLE*” を選ぶ

BASS、TREBLE、BALANCE

② 調整する

−10 dB 〜 ＋10 dB

■音質の調整はマルチコントロールでも行うことができます。

(➡ 20 ページ「TONE」)

音量バランスの調整

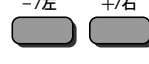
左右フロントスピーカーの出力バランスを調整できます。

① “*BALANCE*” を選ぶ

BALANCE

② 調整する

L　　R

●バーの表示はあくまでも目安です。

■音量バランスの調整はマルチコントロールでも行うことができます。(➡ 20 ページ「BALANCE」)

二重音声の切り換え

AAC 信号の二重音声（受信すると “*DUAL*” と表示）を切り換えることができます。

音声切換

音声を選ぶ

MAIN

MAIN：　主音声
SUB：　副音声
MAIN+SUB：主＋副音声

一時的に音を消す(ミューティング)

●機能が働いている間、表示部に “*MUTING ON NOW*” と繰り返し表示（スクロール）されます。

消音

押す

MUTING ON NOW

■解除するには、もう一度押す

お知らせ

電源を切ると、ミューティングは解除されます。

表示部を暗くする（ディマー）

部屋を暗くして、映画を見るときなどに便利です。

ディマー

押す

■解除するには、もう一度押す

■マルチコントロールを使うと、明るさを細かく調整できます。(➡ 20 ページ「DIMMER」)

スリープタイマー

設定した時間が経過すると自動的に電源が切れます。就寝時などに便利です。

① 押す

SLEEP 30

② 時間を選ぶ

SLEEP 30

30、60、90、120（分）

■残り時間を調べる
[スリープ] を一度押す。

■設定をやり直す
手順 ① と ② を繰り返す。

■解除する
[スリープ] を押して “OFF” を表示させる

■スリープタイマーの設定はマルチコントロールでも行うことができます。
(➡ 20 ページ「SLEEP」)

入力信号の設定

DVD レコーダーや DVD プレーヤーなどのデジタル入力やアナログ入力を自動判別するのか、あらかじめ固定するのかを設定します。

入力 (DVD、TV または DVR/VCR) を選んだ後、

AUTO

AUTO：　自動判別
ANALOG：アナログに固定
DIGITAL：デジタルに固定

お知らせ

デジタル信号が入力された場合は、自動的に DIGITAL に固定されます。

入力信号を PCM または DTS に固定する
（PCM/DTS FIX モード）

PCM FIX：CD などの PCM 信号を再生したとき、冒頭が音切れするような場合
DTS FIX；DTS 信号を自動判別しないような場合

入力モードを“*DIGITAL*”にした状態で (➡ 左ページ「入力信号の設定」)

約 4 秒押したままにする
下記のような表示が出た後、ポンポンと押して切り換える。

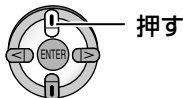
AUTO

DTS FIX*、*AUTO*、*PCM FIX

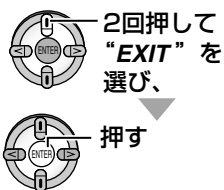
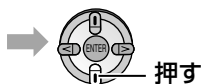
■解除するには、“***AUTO***”を選ぶ

お知らせ
●正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。
●PCM と DTS の信号が両方入った DTS-CD のとき、正しく再生されない場合は、マルチコントロールの OPTION でDTS-PCM を“*ON*”にしてみてください。その結果、雑音が発生したときは、“*OFF*”に戻してください。
(➡ 20 ページ「OPTION」)

以下の操作は本体のマルチコントロールで行います。

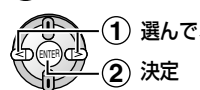
1 マルチコントロールモードに入る

●マルチコントロールのメニューと工場出荷時の状態については20ページを参照ください。

2 設定を変更する（➡ 右記）

3 設定を終える

■ひとつ前のメニューに戻る/キャンセルする

お知らせ
本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

スペクトラムアナライザーを消灯させる

表示部のスペクトラムアナライザーを切/入できます。

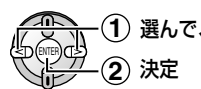
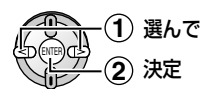
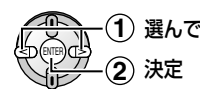
① “*OPTION*”を選ぶ ② “*SPECTRUM*”を選ぶ ③ “*OFF*”を選ぶ

OPTION　SPECTRUM　OFF

ON（入）、***OFF***（切）

小音量でも聞きやすくする

ダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのみ

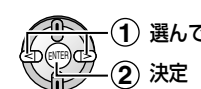
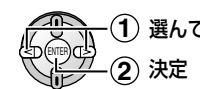
音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。深夜など大きな音を出せない場合に便利です。

① “*OPTION*”を選ぶ ② “*DR COMP*”を選ぶ ③ 設定を選ぶ

OPTION　DR COMP　OFF

OFF：通常の再生
STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
MAX：深夜視聴を前提とした最大の圧縮

アッテネーターの切り換え

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示部に“***OVERFLOW***”が点灯した場合は“***ON***（入）”にしてください。

① “*OPTION*”を選ぶ ② “*A/D ATT*”を選ぶ ③ “*ON*”を選ぶ

OPTION　A/D ATT　ON

OFF（切）、***ON***（入）

■ 解除するには“***OFF***”を選ぶ

デジタル入力端子の変更

デジタル入力端子に接続した機器に合わせて、設定を ***OPT 1***（光1）、***OPT 2***（光2）、もしくは ***COAX***（同軸）に変更します。

① “*SETUP*”を選ぶ ② “*D-INPUT*”を選ぶ

SETUP　D-INPUT

③ デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ ④ デジタル入力の設定を変更する

TV　OPT 1

TV*、*DVR*、*DVD　　***OPT 1*、*OPT 2*、*COAX***

手順 2 3 4 を繰り返して各入力端子の設定を変更する。

お知らせ
ひとつの入力端子には、ひとつの機器のみ設定できます。
例えばもし“***TV***”を“***OPT 1***”から“***OPT 2***”に変更すると、“***DVR***”は自動的に“***OPT 1***”に切り換わります。

録音

本機の“DVR/VCR 出力”端子に接続した機器で、入力ソース（音源）の音声を録音することができます。
●DVD レコーダーやビデオデッキに録画する場合は、再生機器の映像出力端子と録画機器の映像入力端子を、映像コードで接続してください。
●各機器の説明書もご覧ください。

1 録音するソース（音源）を選ぶ
INPUT SELECTOR 押す

2 録音を始める

3 録音するソースの再生を始める

お知らせ
● “DVR/VCR 入力”端子の音声は、“DVR/VCR 出力”端子から出力されません。
●デジタル信号を“DVR/VCR”端子へ出力することはできません。
●デジタル録音を禁止したソースの場合は、GAME/AUX などのアナログ端子に接続の上、その入力を選んでください。
●コピーガードされた DVD などは DVD レコーダーやビデオデッキに録画できません。

リモコンでテレビやDVDなどを操作する

本機の他、**当社製**のテレビ、 DVD レコーダー、DVD プレーヤー、およびビデオデッキを本機のリモコンで操作できます。（ただし操作のできない機種もあります。）各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

操作する機器に向けて

テレビ

操作	ボタン
本機の入力を“*TV*”に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	テレビ テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	AV システム 電源
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	テレビ入力切換
テレビの音量を調整する	画面表示（テレビ音量－） リターン（テレビ音量＋）

操作	ボタン
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき）チャンネル （直接選ぶとき）1～9、0、10、≧10（ダイレクトチューニング）

ビデオデッキ

操作	ボタン
本機の入力を“*DVR/VCR*”に切り換える/リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	ビデオ ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	AV システム 電源
再生を始める	再生
巻き戻し/早送りをする	サーチ

操作	ボタン
一時停止する	一時停止
再生を停止する	停止
チャンネルを選ぶ	（順に選ぶとき）チャンネル （直接選ぶとき）1～9、0、10、≧10（ダイレクトチューニング）

DVD プレーヤーまたは DVD レコーダー

操作する機器に向けて

本機の入力を“***DVD***”または“***DVR/VCR***”に切り換える/リモコンを DVD プレーヤーまたは DVD レコーダー操作モードに切り換える	DVD / DVD レコーダー DVD プレーヤーまたは DVD レコーダー操作の前に必ず行ってください。
DVD プレーヤーまたは DVD レコーダーの電源を入/切する	AV システム 電源
トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）	スキップ
見たい場所を探す（サーチ）	サーチ 見たい場所になるまで押したままにする
再生を始める	再生
トップメニュー（またはプログラムナビ）を表示する	トップメニュー / プログラムナビ
メニュー（またはプレイリスト）を表示する	メニュー / プレイリスト
画面表示（GUI）を表示する	画面表示 / テレビ音量－
前の画面に戻る	リターン / テレビ音量＋

項目を選ぶ ［トップメニュー］、［メニュー］や［画面表示］を押した後に操作してください。	▲ ◀ ▶ ▼
選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 ≧10 例：1 1 例：10 ≧10 → 1 → 0
一時停止する	一時停止
コマ戻し/コマ送りする	一時停止 ▼ ◀ ▶
再生を停止する	停止
DVD とハードディスクを切り換える （ハードディスクのある DVD レコーダーのみ）	DVDレコーダー DVD/HDD ●切り換わらないときは、下記の操作を行った後、もう一度ボタンを押してください。 1. ［決定］を押しながら、［8］または［9］を約 2 秒押したままにする 2. ［DVD レコーダー］を押す （工場出荷時の設定：［9］）

DVD プレーヤーと DVD レコーダーを両方使用するときのお願い

誤動作を防ぐために：

●DVD レコーダーを操作するときは、DVD レコーダーに付属しているリモコンをご使用ください。
●DVD レコーダーのリモコンコードの設定を、“2”または“3”に切り換えてください。（詳しくは、DVD レコーダーの説明書をご参照ください。）

マルチコントロール設定一覧

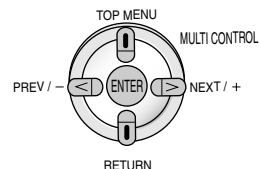
マルチコントロールで行える全設定は以下の通りです。（**太字**は工場出荷時の設定です。）

設定するには

1. [TOP MENU] （または [ENTER]）を押して、マルチコントロールモードにする。
2. [<] または[>] を押して、メニューを選び、[ENTER] を押す。（必要なだけ繰り返す。）

設定を終わる場合は“*EXIT* ”を選び、 [ENTER] を押す。

● [RETRUN] を押すと前のメニューに戻ります。（設定はキャンセルされます。）

●トップメニューのとき、[TOP MENU] または [RETRUN] を押すと、すぐに "*EXIT* " に飛びます。

トップメニュー		サブメニュー 1	サブメニュー 2	サブメニュー 3
TUNER	ラジオの各設定（入力が“*TUNER* ”のときのみ）	TUNING	**MANUAL** / PRESET	
		FM MODE	**AUTO** / MONO	
		MEMORY	**CH1** …… CH30	
		AUTO MEM	START	
TONE	音質の調整（アナログ／PCM信号のみ）	BASS / TREBLE	- 10 …… **0** …… +10 (dB)	
BALANCE	バランスの調整	L ▽ R …… **L ▼ R** …… L ▽ R		
DIMMER	表示部を暗くする	**OFF**		
		ON	LEVEL1 / **LEVEL2** / LEVEL3	
SLEEP	スリープタイマー	**OFF** / 30 / 60 / 90 / 120 (分)		
OPTION	さまざまな設定	DR COMP	**OFF** / STANDARD / MAX	
		A/D ATT	**OFF** / ON	
		SPECTRUM	**ON** / OFF	
		DTS-PCM	**OFF** / ON	
SETUP	デジタル入力設定と本機の初期化	D-INPUT	TV / DVR / DVD	**OPT1** / **OPT2** / **COAX** (TV) (DVR) (DVD)
		RESET	**NO** / YES	
EXIT	マルチコントロールモードを終わる			

本機の設定を工場出荷時の状態に戻すには（ラジオのプリセットチャンネルは残ります。）

1.“*SETUP* ”メニューで“*RESET* ”を選んで [ENTER] を押す。
2.“*YES* ”を選んで [ENTER] を押す。

主な仕様

■ アンプ部

実用最大定格出力
- **フロント(L/R)**　40 W ＋ 40 W（1 kHz 6 Ω, JEITA）
- **サブウーハー**　190 W（100 Hz 4 Ω, JEITA）

定格出力
- **フロント(L)**　55 W（1 kHz 6 Ω 10 %）
- **フロント(R)**　55 W（1 kHz 6 Ω 10 %）
- **サブウーハー**　190 W（100 Hz 4 Ω 10 %）
- 合計 300 W

負荷インピーダンス
- **フロント(L/R)**　6〜16 Ω
- **サブウーハー**　4 Ω

入力感度/入力インピーダンス
- **DVD, DVR/VCR, TV, GAME/AUX**　600 mV/47 kΩ

信号対雑音比(S/N)
- **DVR, TV（デジタル入力）**　85 dB

トーンコントロール特性
- **低音**　50 Hz, +10 〜 –10 dB
- **高音**　20 kHz, +10 〜 –10 dB

デジタル入力(光)	2
(同軸)	1

■ FM チューナー部
- **受信周波数帯**　76.0〜90.0 MHz
- **実用感度**　16.3 dBf（3.6 μV, IHF '58）
- **全高調波ひずみ率**
  - **MONO**　0.3 %
  - **STEREO**　0.5 %
- **ステレオセパレーション**
  - **1 kHz**　35 dB
- **アンテナ端子**　75 Ω（不平衡型）

■ AM チューナー部
- **受信周波数帯**　522〜1629 kHz
- **実用感度**　20 μV, 600 μV/m

■ フロントスピーカー部 (SB-FS923)
- **形式**　2ウェイ、2スピーカー、バスレフ型
- **スピーカー**
  - **フルレンジ**　6.5 cm コーンタイプ、6 Ω
  - **スーパーツイーター**　6 cm リング型ドームタイプ、6 Ω
- **許容入力（IEC）**　55 W（最大）
- **出力音圧レベル**　82 dB/W（1.0 m）
- **クロスオーバー周波数**　5 kHz
- **再生周波数帯域**　90 Hz 〜 50 kHz (–16 dB)　100 Hz 〜 45 kHz (–10 dB)
- **寸法（幅×高さ×奥行き）**　240 ×1138 (最大) 678 (最小) × 240 mm
- **質量**　約 3.7 kg

■ サブウーハー部 (SB-WA03)
- **形式**　1ウェイ、1スピーカー、バスレフ型
- **スピーカー**
  - **ウーハー**　17 cm コーンタイプ、4 Ω
- **出力音圧レベル**　80 dB/W（1.0 m）
- **再生周波数帯域**　32 Hz 〜 220 Hz (–16 dB)　36 Hz 〜 190 Hz (–10 dB)
- **寸法（幅×高さ×奥行き）**　209 ×361 × 463 mm
- **質量**　約 11.3 kg

■ 総合
- **電源**　AC 100 V, 50/60 Hz
- **消費電力**
  - **AVコントロールアンプ**　20 W
  - **サブウーハー**　100 W
- **寸法(AVコントロールアンプ)（幅×高さ×奥行き）**　430 ×68 × 287 mm
- **質量（AVコントロールアンプ）**　約 2 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 1 W

注)
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる第10 次高調波までの総和です。

「JIS C 61000-3-2 適合品」
：JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性－第3-2部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20 A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処置をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認・処置してください	ページ
共通	電源が入らない。	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	9
	機器の再生を始めても音や映像が出ない。	● 入力ソースを正しく選択してください。 ● ミューティングを解除してください。 ● 本機で再生できるデジタル信号か確認してください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 ● デジタル入力端子の設定を確認してください。 ● PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。	12 16 13 8～11 17 17
	表示部に "*F76*" が点灯し、電源が切れる。	● スピーカーコードがショートしていませんか。または異常に温度が高い場所で本機を使用していませんか。 原因を解消の上、電源を入れ直してください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
	表示部に "*FAN LOCK*" が点灯する。		–
	表示部に "*F70*" が点灯する。	● 電源を切り、電源プラグを抜いたうえで、販売店にご相談ください。	–
	リモコンが働かない。	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	5
サウンドモード	サラウンドで音が聞こえない。	● サウンドモードを確かめ、適切なモードを選んでください。 ● 2CH MIX を「切」にしてください。	12,13 13
	ドルビーバーチャルスピーカーや SFC が使えない。	● 48 kHz を越えるサンプリング周波数のときは使用できません。アナログ端子に接続してください。	13
	BSデジタル放送で二重音声放送の切り換えができない。	● BS デジタルチューナーの音声出力を AAC に切り換えてください。	–
ラジオ	受信できない。 雑音やひずみが多い。	● アンテナの向きや位置を変えてみてください。 ● 音質の調整で、高音 (TREBLE) を絞ってみてください。 ● 本機、DVD レコーダー、DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 ● FM 屋外アンテナに替えてみてください。 ● アンテナと他のコードを遠ざけてください。	– 16 – 10 –

Q&A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。 (➡ 16 ページ)
● DTS の音声が出ない。 ● 音声は出るが DTS 表示が点灯しない。	DVD レコーダーまたは DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確かめてください。
48 kHz を越えるサンプリング周波数のDVD を再生しても音が出ない。	著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。
長時間使用すると、本機が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、サブウーハーの放熱孔を物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
サラウンドやセンタースピーカーなどを接続できるか。	本システムではできません。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

保証とアフターサービス （よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・
●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
●使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書 （別添付）
お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間
当社は、このホームシアターオーディオシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき
21 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
●保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。下記修理料金の仕組みをご参照のうえご相談ください。
●修理料金のしくみ
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容			
製品名	ホームシアターオーディオシステム	お買い上げ日	年　月　日
品　番	SC-HT03	故障の状況	できるだけ具体的に

修理に関するご相談
ナショナル／パナソニック　修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

• お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
• 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。
• 最寄りの修理ご相談窓口は、次ページをご覧ください。

使いかた・お買い物などのご相談
ナショナル／パナソニック　お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時
電話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）
■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**
FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256-5444　**Osaka** (06) 6645-8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays/Sundays/national holidays)

ナショナル／パナソニック
修理ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通番号） 0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

北海道地区

地域	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地域	所在地	電話番号
青森	青森市第二問屋町3-7-10	☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18	☎(022)387-1117
山形	山形市流通センター3丁目12-2	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

地域	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1	☎(027)352-1109
茨城	つくば市花畑2丁目8-1	☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13	☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-0171

中部地区

地域	所在地	電話番号
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)86-9209
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

地域	所在地	電話番号
滋賀	守山市勝部6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市筒井町800番地	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(073)475-2984
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地域	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市平成町182番地14	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(083)986-4050

四国地区

地域	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(088)698-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(088)866-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

地域	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2	☎(0985)63-1213
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市長浜町10-1	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地域	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0104

さくいん

お手入れ

柔らかい布でふいてください。
ひどい汚れは、薄めた台所用洗剤（中性）を含ませた布でふき、後はからぶきしてください。
- アルコールやシンナーは使わないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

愛情点検 長年ご使用のホームシアターオーディオシステムの点検を!

こんな症状はありませんか	● 煙が出たり、異常なにおいや音がする ● 音が出ないことがある ● 正常に動作しないことがある ● 商品に破損した部分がある ● その他の異常や故障がある

このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ （おぼえのため、記入されると便利です。）

販売店名	☎（　）－	品番	SC-HT03
お客様ご相談窓口	☎（　）－	お買い上げ日	年　月　日

松下電器産業株式会社　ネットワーク事業グループ
〒571-8505 大阪府門真市松生町 1 番 4 号

RQT7618-2S
H0304SG2054